

報告：「TeLL-Net と世界災害語り継ぎフォーラム」

深澤良信（世界語り継ぎネットワーク（TeLL-Net）事務局次長）

災害を語り継ぐということは、理屈ではなく、人の心を強く揺さぶるものだと思います。人と防災未来センターでは、壊れた家の写真などが展示されています。写真を撮った人の心のつらさ、悲しみなどが強く伝わってきます。遠くに住むお友達が、被災者の方に運んできてくれたペットボトルも展示しています。水を届けてくれた人に対するありがたいという気持ちが伝わってきます。

災害を語り継ぐとき、人、命の大切さとか、日々の暮らしの大切さ、こういうものを伝えるときに、知識や理屈だけでなく、被災者あるいは支援者の人々の心の動きを伝えることが非常に効果的だと思います。理屈でなく、心に突き刺さってくる。そういう意味で、語り継ぎがとても大事だと思っています。

世界各地の色々な方が、語り継ぎについて様々な工夫をしています。同好の士と一緒にやりましょうということで、この TeLL-Net を進めてきました。2年前には、世界 22 カ所の被災地から、40 を超える報告をいただきました。その成果を、「世界災害語り継ぎポータルサイト」に収録しました。それぞれの報告や、各地の語り継ぎの中心人物に関する情報を掲載しています。

国内では雲仙普賢岳、浅間山、北海道の有珠山、安政南海地震・津波と濱口御陵の功績を伝える「稲むらの火の館」などが掲載されています。海外では、ハワイ太平洋津波博物館、オランダの高潮災害記念施設、1999 年の台湾の地震、2004 年のインド洋大津波、2005 年のハリケーン・カトリーナ（アメリカ合衆国）、2008 年の中国四川大地震など、各地の報告がポータルサイトに収録されています。

今後は、各地で語り継ぎに取り組んでいる人たちが力を合わせて、語り継ぎの大切さについて強く訴えていくことが大切だと思います。それから、個々の語り継ぎは主観的ですから、偏りのある情報になったり、品質が劣化してしまったりしないように、お互いに勉強して学び合っていく。人と人が語り合う場の提供という意味で、ミュージアムの役割はとても大事だと思います。それから、新たに語り継ぎを始めていくところには、ノウハウなども提供していきたいと思いますし、このようなフォーラムが他地域で開催されるときに、私たちも積極的に参加したいと考えています。それはおそらく復興の支援にもつながっていただろうと期待しています。2005 年に神戸で第 2 回国連世界防災会議が開催されましたが、2015 年の第 3 回目は、仙台市が手を挙げています。TeLL-Net として何らかの形で参加し、貢献できることを願っています。